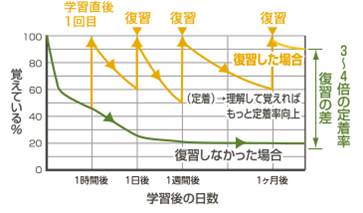
**【　反復で得られるもの　】**

岡本北小学校「ことばの教室」だより　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　R６,９,１７

**しゃぼんだま　　９月号**

右のグラフはドイツの心理学者エビングハ

ウスが発表した「忘却曲線」です。これによる



と人間は学習したことの７４％をわずか１日

で忘れてしまうとされています。

　 授業中，どんなに頑張って勉強しても，そ

のままにしておくと習得できないということ

です。そこで効果を発揮するのが，「家庭学習」

です。もちろん学校でも反復学習は実践します

が，家に帰ってから，ドリル学習等に取り組むと

記憶定着率は飛躍的に向上します。宿題等を通して，家で学習することは大きな効果を生むということだと思います。ことばの学習も同じです。授業で覚えた「感覚」を日々繰り返すことで力は少しずつ定着し,子供達の中に浸透していきます。

知識や技能は,子供たちの中に蓄積される，「知の財産」です。ご家庭での学習への働きかけをお願いします。

　　　　　【耳の訓練】

　ことばの習得における,最初のステップは「音を聞き分ける」ことにあります。音を聞く力には下記の④つがあります。

①他者弁別：相手の発音の正・誤を聞き分ける。

②自己弁別：自分の発音の正・誤を聞き分ける。

③異同弁別：2つの音の異・同を聞き分ける。

④正誤弁別：音の正・誤を聞き分ける。

中でも,④の正誤弁別は,音の小さな「ずれ」や「歪み」を聞き分け,そこを修正していくための訓練をしていくことになります。

　指導にあたる私たちも,はっきりとした違いは聞き分けることはできますが,微妙な音の違いを完全に弁別しているかというと,あやしい部分があります。子供たち

とともに日々「耳を育てる」

ための研鑽を積んでいきた

いと思います。

　　　　　　　　【　自己モニター力　】

　構音指導の目標は,子供自身が誤りに気付いて正しい言い方に修正できるようになることです。そのためには,子供は自分の発音が正しいか間違っているか,を自分でチェックする必要があります。このチェック機能を「自己モニター」といい,指導の中で少しずつ育てていきます。

　例えば,単語練習のはじめは,担当者が正誤をフィードバックしますが,単語が安定するころから,子供が復唱したら,「今のどうだった？上手に言えた？」と問いかけます。子供が自分なりに判断し,「うまく言えた」「まちがえた」と言えるようになったら,素晴らしい進歩です。さらに,「舌の位置が悪かった」とか「息が横から出ちゃった」等の具体的な動作の修正点に目を向けられるようになったら,自己モニター力の完成となります。ここから,日常会話での正しい発音に到達することが理想的なゴールではありますが,自己モニターができて,間違えたら正しく言い直せばいいのだと思います。学校生活でも,間違えることはたくさんあります。間違えたら,修正して進めばいいのだと思います。

